

大宮支社の『危機管理能力の欠如』が露呈！ 管理者・支社の安全意識が今問われている！

7月10日、京浜東北線の運転士が対向列車の乗務員室窓から『子供が顔を出している』のを発見し職場に問い合わせたところ、【自治体の学生を対象とした職業体験】の一環として営業列車に乗車していた事が判明しました。また、関係線区職場や支社に対して連絡を行っていない事実も発覚しました。

地元の学生を対象とした職業体験は勤労観や職業観を醸成する機会であり、地域・社会貢献の一環として素晴らしい活動です。しかし、お客さまから運賃を頂き命を預かって運行している営業列車にわざわざ乗車させる必要があったのでしょうか？防護無線や非常引きスイッチなど、意図せず不意に作動させてしまう可能性も否定できません。

この間、タブレットやイヤホンの不祥事もありお客さまの厳しい目が注がれているという背景もある中で、職業体験のカリキュラムに営業列車への乗車が必要なのか、事故や怪我などの事象が発生するリスクがないか検討し判断したとは到底考えられません。

私たち社員は入社時や乗務員研修などで安全教育を受けていますが、社外の方は教育を受けていません。過去には鉄道イベントで社外の方が列車を起動させてしまった事故も発生しており、落とし窓から顔を出して何かに接触する可能性や、意図せず機器類に触れてしまい安全運行を阻害してしまう可能性も否定できず、学生やお客さまに万が一何かあった場合、一体誰が責任を取るのでしょうか？

『想定外の危険を想像し安全を先取る』という**会社の姿勢とは真逆である『想定内のリスクも想像できず危険を先取り』している現状**から、安全管理について不安に感じた社員が職場の管理職に話しに行ったところ、このような返答がありました。

会社：「機器類には触れないよう注意している、
上(大宮支社)が乗車を許可したから問題ない。大丈夫！」

「(あなたに)言われなくても、しっかり管理している」

私たちは地域貢献や社会貢献の一環であるこの活動自体を否定していませんし、この活動にむけて一生懸命取り組んだ社員の方々を非難するつもりもありません。また、せっかく来てくれた学生に多くの体験をさせてあげたいという想いも伝わります。

問題なのは、安全意識を持ってカリキュラムを精査し、リスクを排除できなかった現場長や支援者、大宮支社にあるのではないのでしょうか？

**お客さまの命を脅かす可能性は否定できない！
営業列車への乗車体験は中止するべきだ！**